

気象庁のガイドライン概要と抜粋

MJ@lertの機能

気象庁のガイドライン概要と抜粋		MJ@lertの機能	
端末機能	端末機能	サーバーとの接続障害通知の検知	配信サーバーと受信端末間で15秒毎に1回の死活監視を実施。5分以上通信異常が継続した場合に、メールにて異常通知が発信される。正常に戻った際は、直ちに正常接続の旨のメールが発信される。
		緊急地震速報を受信して、鳴動または制御信号を送出するまでの時間	<Q-CastS740-MJ> 地震速報を受信して、鳴動・制御信号出力まで100msec以内 <FTE-MJ> 地震速報を受信して、鳴動・制御信号出力まで200msec以内
	地震予報機能	地震動予報の手法	予報業務の許可事業者 許可第103号の三菱スペース・ソフトウェアによる データ配信を使い、配信契約毎に設置された受信端末の緯度、経度と、当該地点の地盤増幅率から、予測震度、主要動到達予測時刻を、配信サーバー側で演算。
		時刻あわせの機能	受信端末側の登録により、複数のタイムサーバーとの時刻調整を自動で実施。タイムサーバーとの接続エラー時は、受信端末にエラー表示。
		予報履歴の保存・管理	ポータルサイトにて、配信契約別に緊急地震速報の配信履歴の確認可能。現在のところ履歴保管期限に制限は設けておりません。
	報知・制御条件機能	報知音	<Q-CastS740-MJ> 事前設定により複数の音声パターンの報知音選択が可能。 <FTE-MJ> 音声パターンは1種類のみ
		緊急地震速報の精度情報による動作	システム側設定により、ユーザ毎に1観測点のデータを使用しない設定とすることも可。
		複数の地震を続けて受信した場合の動作	直近に受信した地震速報に対応した動作に切り替わります(後優先)。接点出力動作を行っていた場合は、その動作を継続します。
		キャンセル報を受信した時の動作	受信端末が鳴動中であっても、キャンセル報を受信した際は、「只今の緊急地震速報は取り消されました」のガイダンスが流れる。ただし、猶予時間が0秒になる前に異なる緊急地震速報を受信した場合は、キャンセル報は受付ない。
		配信サーバーからのテスト報の対応	受信端末のみの単体テスト以外に、配信契約者はポータルサイトより、配信サーバから受信端末に対して訓練報を自由に流すことが可能。
気象庁からの訓練報の対応		ポータルサイトより、気象庁からの訓練報に参加する/しないの選択が可能。 2011年度訓練より、利用可能	
配信能力	事業者の通信能力	気象庁が緊急地震速報を発表してから端末に届けるのに要する時間	MJ@lertで緊急地震速報を受信してから、受信端末に届くまでおおむね数十msec程度。(NTTPCコミュニケーションズ/Master sONE使用時)
		配信サーバーの設置環境	世界最高レベルの耐震性能と電源系統の多重化および確実なバックアップによる高信頼度の電源が確保されたデータセンターに設置されており、サーバーは冗長化構成。
		受信端末への個別配信可否	配信サーバーと受信端末はTCPにより1対1で接続されており、個別配信が可能。これにより配信サーバーによる個別の死活監視や訓練報を流すことが可能。
	事業者のサポート	利用者への連絡手段と内容	緊急地震情報配信時、死活監視エラー時に、登録メールアドレスへメール発信される。
		端末の利用方法に関する助言	許可事業者で、24時間365日体制のサポート受付窓口を保有。
		気象庁の配信方法変更に伴う対応	気象庁は配信フォーマットを、独自フォーマットからXML化を予定しており、2011年5月中旬より並行稼動中。2013年度にはXML形式に統一される。 MJ@lertはシステム側でXML対応を実施するので、端末の交換等の必要はありません。 2011年3月末時点で、システム側の対応は完了。